



行政改革大綱に向け諮問

令和2年度からの行政改革の指針となる行政改革大綱の策定に向け、行政改革審議会に対し近藤市長が8月2日、諮問を行いました。市では、スリムで効率的な行政運営の実現と、必要な行政サービスの充実を図るため平成17年度から改革に積極的に取り組んでいます。

大綱は5年ごとに見直され、今回は第4次。市では公共施設等最適化や組織・機構など5つの内容について審議会から提言を受ける予定です。

▶看板を設置する安来市社会福祉協議会小笹会長（左）と田中常務理事。



親しみやすい愛称が決定

地域包括支援センターの役割を知ってもらい、親しみを持ってもらおうと同センターに愛称を制定しました。

この程決まった愛称は「高齢者まるごと相談センター」。介護やひきこもり、生活問題などの複合的な相談が増える中で、それらをまるごと相談できることを強調しています。

同センターでは、今年度から休日相談や早朝・夜間相談を実施して窓口を強化。電話による24時間体制で高齢者を中心とした生活支援を行っています。

▶近藤市長（左）から諮問を受ける同審議会小林会長。



▶芝の丘から花火を楽しむ様子。



芝の丘から花火を観覧

緑の芝とカラフルな遊具を目当てに連日、家族連れで賑わう中海ふれあい公園。7月28日は「米子がいな祭大花火大会」に合わせて開園時間を22時まで延長しました。

当日は、夏の風物詩を一目見ようと多くの人が来園。芝の丘の上やあずまやなどに集まり、空高く打ち上げられた花火を楽しんでいました。

夏の夜に花火の音と歓声が広がった同公園。安来の新たな花火スポットとして注目が集まるかもしれません。

地域の力で生活支援

荒島地区では今年度から地元の人々が協力して、高齢者などを対象とした生活支援に取り組んでいます。

7月16日には荒島交流センターで、活動を行う荒島地区生活支援協議体のメンバーへ安来市社会福祉協議会から支援活動に対する委嘱状を交付。今後、実施計画を立てた上で、年度内に生活支援を始める予定となっています。

また、同協議体では生活支援のほか、防災や地域交流などの事業にも取り組めます。

▶当日は、同協議体の委員20人が出席。代表して勝部幸治委員長（右）が委嘱状を受け取りました。

